

学校改善と地域社会の役割：タイの事例

ワライポーン・サンナパボヨン

タイ教育省 国家教育委員会



タイでは、学校と地域社会が緊密に連携して教育の提供と発展が進んできている。学校、寺院、家族はタイ社会の3本柱と考えられている。家族は子どもたちを愛し、慈しみ、学校は学習者が身体的・精神的・知的・社会的に成長するように教育を提供し、寺院などの宗教機関は道徳的な価値観を養う。

しかし教育行政の中央集権的な制度や社会の急速な変化によって、家族や寺院が教育に果たす役割は低下し、二者は学校から遠ざけられた。

教育改革をめざした1999年の国家教育法は、教育の質を継続的に向上させ、その基盤の上に教育を提供すること、全国民に生涯教育を提供すること、すべての社会層が共同して教育の提供を行うこととした。また同法の第9条は、教育事業および教育の運営は、原則として家族・地域社会・地域組織・地方自治体・民間機関・専門家組織・宗教団体・企業家などが協力すると定めている。さらに、より多くの権限を学校に与えるために、教育省から学校へ教育行政の分権化を実施すること、すべての学校に学校評議会を置いて学校運営を監督・支援すること、学校評議会は保護者、教員、地方自治体、地域社会、卒業生、仏教等の宗教団体の僧、学者などの代表者からなることとされた。

国家教育委員会は、教育改革政策を実現するために250のサンプル校を対象に「学習者の成長のための全校改革」に関する研究開発プロジェクトを実施した。プロジェクトの開始当初、教育運営の分権化および自律的な学校経営のための権限委譲に関して、学校評議会は自分たちの役割や責務を理解していなかった一方、学校も学校評議会に寄付の提供と地域社会での募金活動しか期待していなかったことがわかった。しかし、研究者の指導を受けて協力しあううちに、学校評議会は自分たちの役割や責務の重要性を理解するようになり、役割や責務をより果たせるようになった。学校側も、学校評議会や地域社会が資金以外にも多くの資源を有していることを理解するようになった。例えば、様々なアイデア、独創的な考え、知識、知恵、専門性、ネットワーク、技術、機器、労働力、学習材料などであり、これらはすべて学校の改善に寄与することが可能である。

タイでは、教育改革の最初の10年（1999年－2009年）に、学校と地域社会の協力において、いくつかの進展がみられた。例えば僧侶の教員が仏教や道徳を学校で教えるために配属され、仏教庁から給与が支給されている。生徒は地域の専門家から、タイの美術・音楽・農業・工芸・タイの薬草や医学など、タイの知識を学ぶ。生徒は地域社会の学習材料を活用する校外学習を奨励されている。水田、森、寺院、市場、海岸、各博物館・美術館など、様々なものが教材となる。生徒は校外学習や体験学習を楽しみにしている。多くの場合、地域住民が学校の建設を手伝う。寺院、卒業生、保護者、地域住民などの関係者は、奨学金や学校改善のための寄付金を提供する。基礎教育局が2006年に実施した調査によると、学校予算の約3分の1が政府予算以外の資金でまかなわれていた。この点からも、地域社会が学校の財政援助に大きな役割を果たしていることがわかる。

学校は教育省の管轄にあり、地方自治体は内務省の管轄にあるため、教育省が実施しようとしている教育行政の地方自治体への分権化は、いまだに実現から程遠い。しかし学校の支援に力を入れている地方自治体の数は増えつつある。教育開発のための学校、域社会の協力に関するベスト・プラクティスとされる

Surplur 地区自治体 (TAO)¹のケースをご紹介します。

Surplur 地区はタイ東北部のウドンターニー県にある。地区内には小学校が 5 校と中等教育の学校が 1 校ある。まず、Surplur 地区自治体、教育事業地区 (Educational Service Area)、学校の三者から地域のリーダーが集まって話し合った。リーダーたちは地区内の 6 校の教育達成が低いこと、これらの学校に通う生徒数が減少しており、評判も低下していることを懸念していた。保護者は学校を信頼できず、子どもたちを町の学校に入れていたため、地域の学校の生徒数が減少した。

地域住民と何度か話し合った後、三者のリーダーたちは地区にある 6 校の教育の質を改善するため、覚書に合意して署名した。彼らは三者が緊密に協力するこのモデルを Surplur モデルと呼んだ。生徒を中心に置いて、学校・家族・地域社会が連携するモデルである。

覚書により、協力の 5 段階－考察の協力、計画の協力、実施の協力、評価の協力、感謝の協力が導入された。三者はそれぞれの使命および重要実績評価指標を定め、それに基づき最善をつくして責務を果たすことに合意した。

ウドンターニー教育事業地区の重要実績評価指標は次の 7 項目からなる。(1) 学校は国の基準と地域のニーズを満たす教育を提供する。(2) 教員は専門性の基準に従って資格を有している。(3) 学校のカリキュラムは、地域社会の実情に合わせた妥当なものである。(4) 学校のニーズに従い、適切に予算配分と資金調達が行われている。(5) 教員は十分に配置されている。(6) 監督・モニタリング・評価は、学校教育の開発を支援するのに十分効率的な制度となっている。(7) 学校教員の士気や意欲を高めている。

Surplur 地区自治体は、4 つの分野の 16 の指標を定めている。すなわち、(1) 保健・衛生 (給食、ミルク、水、個人の衛生、医療)、(2) 公衆衛生 (トイレ、食堂、診療所)、(3) 環境・ユーティリティ (景観と維持管理、電気と維持管理、水道と維持管理、建物・設備、運動場・スポーツ器具)、(4) 教育・宗教・文化の振興 (奨学金、通学費または自転車、人的支援、教育機器およびメディア、スポーツ・宗教・文化活動の振興) である。

学校は次の 16 の指標を達成目標としている。カリキュラム、授業、望ましい学校像、課外活動、質保証制度、参加型教育行政、学齢期のすべての生徒へ基礎教育を提供、生徒のケアと支援、教育資源の調達、専門的な基準を満たすための現職教員研修、学校の年次報告書、学校の安全制度、ガイダンスおよびカウンセリング、地域社会の学習サービス、学校財産のメンテナンス、TAO や地域社会と共同でスポーツ・宗教・文化活動を振興することである。

学校改善に関する地域社会の貢献は、Surplur モデルも他のモデルと同様に、寺院や他の関係機関が寄付金や奨学金を提供したり、僧侶が学校に来て仏教や道徳を教えたり、地域の専門知識を持つ人々が、タイの知識や知恵を生徒に実演したり伝授したりすることなどである。Surplur モデルが他のモデルと異なる点があるならば、学校や生徒の向上のために、地域の教育ボランティアが積極的に多くの活動に参加していることであろう。

教育ボランティアは、Surplur 地区自治体における理想の生徒像についての話し合いに参加する。教育成果として期待される理想の生徒とは、国や宗教や王を愛し、正直で、規律正しく、集中して勉強し、自立した生活ができ、勤勉で、タイ人であることを誇りに思い、公共心があり、謙虚で礼儀正しく、創造力があり積極的に自己表現し、平和的に問題解決ができ、両親や先生に対して素直で、健康で明るく、年齢相応に理解し読み書きができ、総合的な学習ができ、コンピュータが使い、知識の検索や通信するのに必要な情報通信技術があることである。また、教育ボランティアは教員を支援する。保護者も生徒を見守り、子どもたちが期待される成果、つまり理想とされる生徒像に近づくよう、適切に育てる。

¹ TAO=Tambon Administrative Organization
Tambon (タンボン) とはタイ語で Distract (地区) の意味。

さらに Surplur モデルの学校は、学校給食の提供に関しても様々な政府機関や民間機関から支援を受けた。漁業局は稚魚を提供し、どのように漁業や養殖の生産を増やすか教えている。農業振興局は苗を提供し、野菜や果物の育て方を教えている。共同組合振興局は、学校銀行の運営や経理についてアドバイスを行っている。民間企業はニワトリ、アヒル、豚、飼料などを提供し、どのように生産性を向上させるか教えている。これらの活動によって、農村部の学校給食には十分な食材がまかなわれているだけでなく、生徒はタイ国王陛下の提唱する「足るを知る経済」の哲学を学んでいる。

Surplur モデルを実施して2年が経ち、これらの重要な三者のコミュニケーションや相互関係、交流が進んで、いくつかの成果が生まれ、変化も起きている。まず、保護者や地域住民は、生徒の態度やマナーが改善し、学習意欲が高まったことに満足している。彼らの学業成績はまだそれほど伸びていないが、次の全国テストでは成績が上がるのが期待されている。第二に、教員は事務的な仕事より授業にかける時間が増え、より授業に専念できるようになった。第三に、Surplur 地区自治体は優先事項を町の公共事業による建設から教育支援に移した。自治体はその役割と責任に従って、教員や生徒のために、学校のニーズに迅速に対応するようになった。第四に、教育事業地区は対象グループの生徒全員に対して質の高い教育を提供するために、地域社会のあらゆる層の人々の協力をあおぐことに成功した。2015年までに、すべての学齢期の生徒が就学できるようになり、ユネスコや国際社会が求める「万人のための教育」を達成できると期待している。最後に、地域住民は地域の学校に誇りを持つようになり、その教育の質をより信頼するようになった。さらに、どのような学力競争においても学校や生徒が優秀な成績を収めると、それは関係者全員が分かち合うべき地域全体の成果や成功としてみなされている。

このモデルは、地域社会が学校改善に非常に重要な役割を果たせることを示している。彼らが学校を支援する主な動機は、すべての若者が学校や卒業後の人生で成功することを支援することである。学校と地域社会が子どもたちに対する関心や責任を共有していることを認識すれば、よりよいプログラムや機会を生徒に提供するために、両者は進んで協力するだろう。また、子どもたちの周りに思いやりのある地域社会が形成されるだろう。これこそ、そのような連携を成功させる重要な要素の一つである。

タイは現在「教育改革政策の第二の10年（2009年－2018年）」にあり、質の高い教育をすべての生徒に提供する目標を達成するために、教育改革の中心に生徒をおき、学校と地域社会の連携を主要な方策の一つとしている。

国家教育委員会が2001年－2004年に実施した「学習者の成長のための全校改革」に関する研究開発プロジェクトでわかったこと

最初は

- 学校評議会は自分たちの役割や責務を理解していなかった。
- 学校も学校評議会に寄付の提供と地域社会での募金活動しか期待していなかった。



研究プロジェクトを通じて

- 学校評議会は自分たちの役割や責務の重要性を理解し、役割や責務をより果たせるようになった。
- 学校は学校評議会や地域社会が資金以外の資源を有していることを理解するようになった。
 - アイデア、創造性
 - 知識
 - 知恵
 - 専門性
 - ネットワーク
 - 技術
 - 機器
 - 労働力
 - 学習材料
 - 資金

タイの学校と地域社会連携における近年の発展

- 僧侶が学校や寺院で仏教や道徳的価値観を教えている。



- 児童生徒が地域の専門家から学ぶ。



- 地域の様々な資源が教材となる。

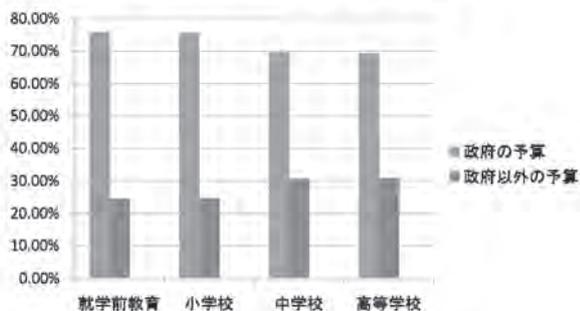


タイの学校と地域社会連携における近年の発展

- 地域の住民が建設を手伝う。
- 寺院、卒業生、保護者、地域住民などの関係者は、コンピュータ、奨学金、学校改善のための寄付金を提供している。



一人当たりの教育費の予算源



出典: タイ教育省 基礎教育における一人当たりの支出調査 2006年

ウドーンターニー県Surplur地区の事例



東北部にある
ウドーンターニー県

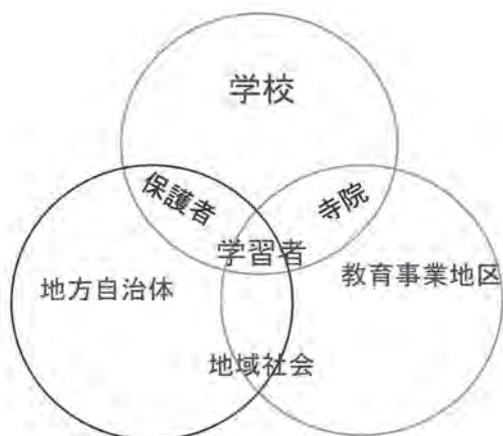
Surplur地区の教育問題

- 低い学力
- 就学者数の減少と評判の低下
- 小規模校の非効率な経営

三者の協力

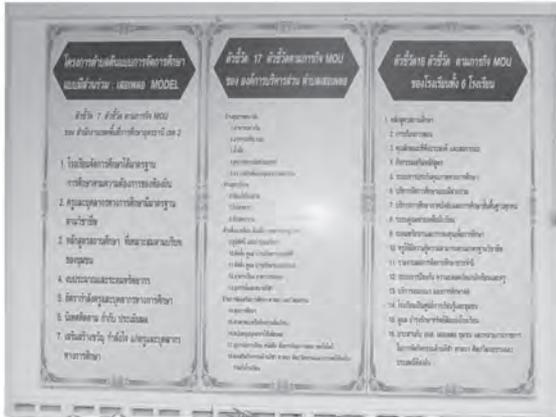
覚書 - 各者が最善をつくして教育を提供する役割を果たす

- タンボン (地区) 自治体 (TAO)
- 教育事業地区
- TAOの6校



協力の5段階

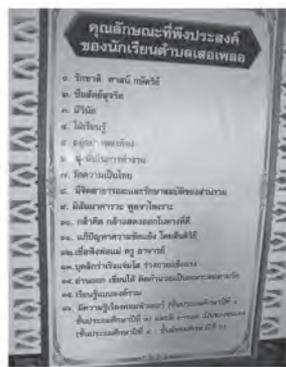
- 考察の協力: 学校の問題を明らかにする。
- 計画の協力: 教育を支援するために各者ができることを明らかにする。各者の重要実績評価指標を定める。
- 実施の協力: 教員、保護者、教育ボランティアが自分たちの責務と役割に従って協力する。
- 評価の協力: モニタリングと評価。
- 感謝の協力: 成功を分かち合う。



三者が定めた重要実績評価指標

地域社会の役割

- 寺院は寄付金や奨学金を提供し、僧侶は仏教を教える。
- 地域の専門家がタイの地域の知恵に関する知識や仕事を教えたり実演したりする。
- 教育ボランティアが教育の成果を定め、児童生徒のマナーや態度の改善を支援する。



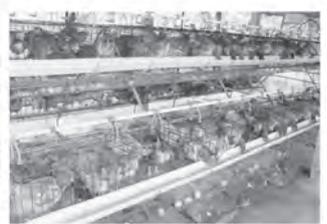
教育ボランティアが理想の生徒像を描き出すことに協力している

官民連携による 学校給食の自給

- 政府機関:
 - 漁業局が養殖用の魚やカエルを提供し、漁業や養殖に関してアドバイスする。
 - 農業振興局が苗を提供して、野菜や果物の栽培方法を教える。
 - 共同組合振興局が学校銀行の経営や経理に関してアドバイスする。
- 民間企業はニワトリ、アヒル、豚、飼料を提供し、生産性の向上に関してアドバイスする。



自給自足の野菜畑や果樹園



生徒は学校給食用にニワトリ、魚、豚、アヒルの飼いを学び、「足るを知る経済」を学ぶ。



協力の成果

- 児童生徒：マナーがよくなり、学習意欲が高まった。(まだ学業成績はそれほど変わっていないが、次の全国テストでは成績が上がると期待されている)
- 学校：教員は授業に専念するようになった。
- 地区自治体：教育をより高い優先項目とし、保健・ユーティリティ・ICT・財政などの面で教育を支援する役割を認識するようになった。
- 教育事業地区：すべての生徒に質の高い教育を提供するために、地域社会のすべての層の協力を得られるようになった。
- 地域住民：地域の学校に対して誇りを持つようになり、その教育の質を信頼するようになった。



ご清聴ありがとうございました



地域教育の改善：
エンパワメントと公正を求めて
タイの事例研究

ジェラルド・W・フライ
ミネソタ大学教育人間開発校
組織リーダーシップ・政策・開発学部

第8回国際教育協力日本フォーラム
2011年2月3日 東京



あなたがたが疑うのも当然です。不確かだと思ふのも当然です・・・ 権威ある伝統だからといって信じてはいけません。よく言われていることだからといって信じてはいけません。噂や聞き伝えを信じてはいけません。経典に書いてあるからといって信じてはいけません。自分が信じている考え方と同じだからといって信じてはいけません。名声ある人が言っていることだからといって信じてはいけません。先生がかくかくしかじかと言ったからといって信じてはいけません。自分で実際に経験しなさい。

仏陀
カラマ・スッタ

言葉は、独白を超えて対話にならなければ、単なる言葉でしかない。現実の人間同士の対話が行動の種となる。
(Somsak, p. 135)

“権力の集権化は発展の
大きな障害となる”

Seksan Prasertkul
2010年12月19日

「価値の前提と仮定を明示すること」が
非常に重要
(ガンナー・ミュルダール、スウェーデンの
ノーベル賞受賞者)

私にとって重要な「価値の前提と仮定」

黒い金 (Black Gold) (社会正義、平等、公正、万人のためのアクセス)

黄色い金 (Yellow Gold) (文化保護・文化的民主主義、文化知識・能力の開発、「心のソフトウェア」の開発)

青い金 (Blue Gold) (持続可能な開発、足るを知る経済、きれいな空気と水)

緑の金 (Green Gold) (森林保護、社会林業、グリーン・キャンパスの開発、マヒドルなど)